



あなたと博物館

HIRATSUKA CITY MUSEUM

'01 2月号

第2回

♣ 博物館まつり ♣

平成12年2月9日～18日 博物館特別展示室



今年も、博物館で活動するさまざまなサークルが一堂に会して展示や発表を行う「博物館まつり」が開催されます。日ごろの熱心な活動の成果をぜひごらんください。また、会への参加に興味をお持ちの方も、この機会に活動内容をお確かめください。

参加サークル（13団体）

漂着物を拾う会
古代遺跡を探す会
裏打ちの会
天体観察会
民俗探訪会
相模川の生い立ちを探る会
ろばたばなしの会
古文書講読会
地域史研究会
植物誌調査会
石仏を調べる会
空襲と戦災を記録する会
展示解説ボランティアの会

実 演

- 裏打ち作業実演（裏打ちの会）
- 縄文土器焼き実演（古代遺跡を探す会）

2月17日：見学自由

博物館まつり発表会 2月17日（土）13時より 博物館講堂（入場無料）

○漂着物を拾う会／漂着物が教えてくれたこと○相模川の生い立ちを探る会／箱根火山を探る○天体観察会○戦災と空襲を記録する会／記録は語る○古文書講読会および地域史研究会／災害史（300年前の火山と地震災害）○民俗探訪会／須賀、海宝寺お十夜について○石仏を調べる会

写真で見る20世紀の平塚(3)



山本登さんの写真展に向け、博物館では写真の撮影地を訪ねる作業も行っています。50年経ってどのように変化したのか、うまくいけば同じアングルで撮影し、昔と今の比較をしたいと目論んでいます。まずは撮影地探しから始めます。たとえば、富士山と弘法山の角度を合わせ、古い地図もにらみながらおおよその場所を特定したら、現地に赴き、あちこち駆け回って探します。こんなとき、最も有力なのは地元の人の情報です。家が写っていたら豆粒のようでも誰の家か教えてください。また、写真を見ながら思い出を語ってくれる人がいます。その語りによって、一枚の写真からさまざまな情報が引き出せるようになるのです。

写真は、万田八重久保の池付近から出縄方面を見下ろした風景で、昭和30年代半ばの3月に撮影されたものです。手前は八重久保の谷戸田で、現在も棚の形や道はあまり変わっていませんが、休耕のため一部に里

芋などが植わっています。谷戸田の隅には堆肥が積まれ、ママ（畦畔の斜面）に薪が束ねて置かれています。写真に大木があまり無いのは、当時はマキヤマといって、10年から15年くらい経つと伐って薪にしたからで、現在は八重久保の池付近は木が大きく育ち、木に登らぬ限りは同じアングルで撮れなくなりました。

農家の屋根は、まだほとんどが草葺きです。万田は湘南平に広いカヤバを持っていたため、昭和に入り小麦カで屋根を葺く所が多くなっても、戦後も茅葺き屋根の家が見られました。カヤは小麦より長くて固いために葺くのが大変でしたが、小麦の倍の年数は長持ちしました。このように、昔の写真と現況を比べてみると、マキヤマやカヤ屋根に代表される山の利用がほとんど無くなったことが分かります。

撮影地探しはトントン拍子に進むことばかりではありません。特定しかねる写真も多いのです。次の写真は、山本さんのメモに昭和34年上吉沢付近とあり、牛にスキを引かせて畑を耕している場面です。背後に大山がうっすらと見え、前山の角度を合わせれば場所は分かりそうですが、方々歩き回っても該当地は見つかりませんでした。この景色に見覚えのある方はご一報ください。

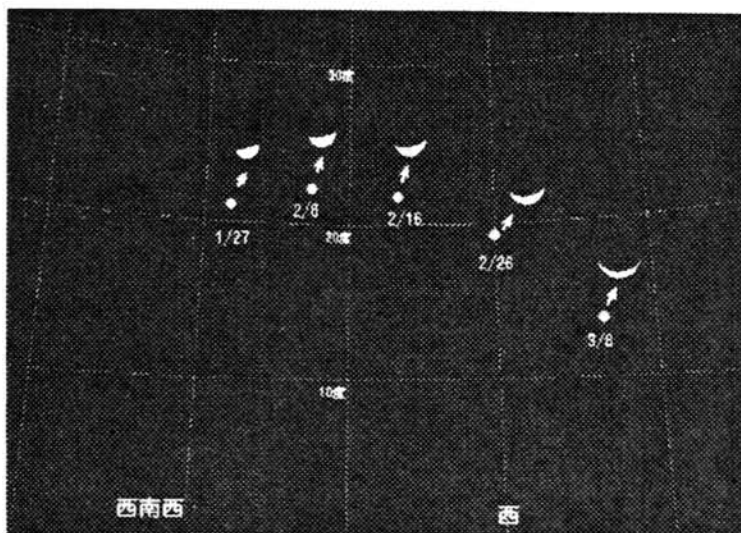


春期特別展

思いでの風景 思いでの人びと
— 山本登写真展 —

3月17日（土）～5月6日（日）博物館特別展示室

2月22日は金星が最大光度になる日です



22日の金星の形

-4.6等と、宵の明星の金星が、2月22日に最大光度となります。

金星は昨年秋から夕暮れの南西の空に輝いてきましたが、この2月に最も明るくなります。

-4.6等という明るさは、1等星の約170倍という明るさです。これはもう星の中ではダントツに明るく、西空で輝いています。

左図は午後7時の西空に見える金星の位置と、200倍の倍率で見たときの金星の姿を表したものです。月ではありません。金星も月のように満ち欠けをするのです。そして、今、金星はだんだん半月形から三日月形に変わってきています。金星ですから、半金、三日金と呼ぶところでしょうが。

そして、金星の見かけの大きさも大きく変化して行きます。これは、金星が地球に近づいてくるためです。地球に一番近づくのは3月30日頃で、この時期は太陽の近くに位置し、その姿も新月のような状態のため見えません。

22日の最大光度をすぎると、西空で急に低く下がりだします。宵の明星として夕方の西空に見えるのは、3月中旬頃までです。

プラネタリウム投影

★南半球の星空★

2月の宵、南の地平線に見えるカノープスという1等星は、わずかの高さに浮かびまもなく沈むので、日本ではなかなか見られない星として親しまれています。しかしたとえばハワイでは高さも20°くらいになり、さほど珍しい星ではありません。見える星空の範囲は地域の南北で異なるのです。

星空を緯度経度で表わすとき、平塚では天の赤道より南55°（-55°と表わします）以南の星は見られません。有名なみなみじゅうじ座などがここに含まれます。また、日本のすばる望遠鏡が建てられたハワイでも、-70°より南は観測できません。地平線ぎりぎりの星などは観測できる時間も短く、観測可能な範囲はもう少し狭くなるでしょう。南の天体をじゅうぶんに楽しむには、やはり南半球で観察する必要があります。

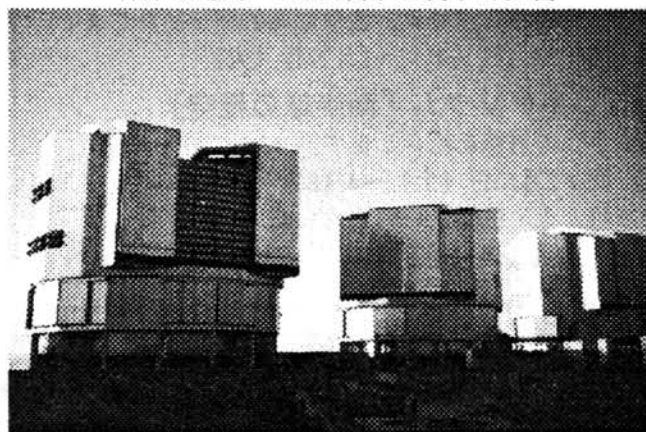
南米の国チリといえば、アンデス山脈やインカ文明で名高いところですが、アタカマ砂漠にあるセロ・パラル山には今、ヨーロッパの8カ国が共同出資したヨーロッパ南天天文台（ESO）の観測所があります。ここには口径において日本の「すばる」となれば8m

の巨大望遠鏡を4台も使用したVLTという大きな計画が進行中で、すでに数台が稼働を始めているのです。新たな視線を待つ、美しい天体の宝庫、南半球の星空を見てみましょう。

期 間：2月10日～4月8日

投影日：土日曜日（3月31日を除く）11:00、14:00

春休み臨時 3月28日、29日、4月4日



光り輝くVLTのドーム群（田辺玲奈さん提供）

博物館カレンダー

2001年2月

1	木	展示解説ボランティアの会	特研究室
	☆	寄贈品コーナー「鳥の羽いろいろ」 (～2月27日)	展示室
2	金	古文書講読会	講 堂
3	土	天体観察会「カノーブス」	野 外
8	木	石仏を調べる会	特研究室
9	金	古文書講読会	講 堂
	☆	博物館まつり (～2月18日)	特展室
10	土	◎ 漂着物を拾う会	虹ヶ浜
		地質調査会	野 外
	☆	プラネタリウム「南半球の星座」 (～4月8日)	プラネ室
14	水	地質調査会	特研究室
15	木	展示解説ボランティアの会	特研究室
16	金	古文書講読会	講 堂
17	土	☆ 博物館まつり発表会	講 堂
18	日	◎ ろばたばなしの会	展示室
		相模川の生い立ちを探る会	野 外
21	水	裏打ちの会	科学室
22	木	石仏を調べる会	特研究室
23	金	古文書講読会	講 堂
	◎	星を見る会「木・金・土星」	屋 上
24	土	空襲と戦災を記録する会	特研究室
		地質調査会	科学室
25	日	古代遺跡を探す会	野 外

☆博物館まつり

博物館で活動するさまざまなサークルの活動やその成果を展示紹介します。展示期間中には発表会や裏打ち作業実演、縄文土器焼き実演(ともに2月17日午前中)などの催し物も実施します。

期 間: 2月9日(金)～2月18日(日)

場 所: 博物館特別展示室

発表会: 2月17日(土) 13時より

会 場: 博物館講堂(入場無料)

☆寄贈品コーナー「鳥の羽いろいろ」

野鳥観察グループ「こまたん」から寄贈されたアオバトの全身の羽を中心に、色々な鳥の羽を紹介します。

期 間: 2月1日(木)～2月27日(火)

☆プラネタリウム「南半球の星空」

南米チリの星空を紹介します。

期 間: 2月10日(土)～4月8日(日)

投影日: 土・日曜日 11時、14時

*土・日曜日の11時と14時 *観覧料: 1人100円

2001年3月

1	木	展示解説ボランティアの会	特研究室
	☆	寄贈品コーナー(天文分野) (～3月30日)	展示室
2	金	古文書講読会	講 堂
3	土	民俗探訪会「淡島神社例祭」	横須賀
4	日	地質調査会	野 外
9	金	古文書講読会	講 堂
10	土	◎ 漂着物を拾う会	虹ヶ浜
		地質調査会	特研究室
14	水	地質調査会	特研究室
15	木	展示解説ボランティアの会	特研究室
16	金	古文書講読会	講 堂
17	土	天体観察会「まとめ」	科学室
	☆	特別展「山本登写真展」 (～5月6日)	特展室
18	日	◎ ろばたばなしの会	展示室
		相模川の生い立ちを探る会	野 外
21	水	裏打ちの会	科学室
22	木	石仏を調べる会	特研究室
23	金	古文書講読会	講 堂
24	土	◎ 民俗講演会「西相模の富士講」	講 堂
		空襲と戦災を記録する会	特研究室
25	日	古代遺跡を探す会	野 外
	○	こども観察会「早春の丘陵」	土 屋
30	金	○ 体験学習「スペクトル分光器を作ろう」	科学室
		古文書講読会	講 堂
	◎	星を見る会「月を見よう」	屋 上

◎ろばたばなし

展示室民家のいろいろばたで民話を聞きましょう。

日 時: 2月18日(日) 13時30分、15時

場 所: 展示室民家。参加自由

◎星を見る会「木・金・土星を見よう」

よいの空の3惑星を望遠鏡で眺めます。

日 時: 2月23日(金) 19時～20時30分

場 所: 科学教室・屋上

◎漂着物を拾う会

日 時: 2月10日(土) 9時30分～11時

場 所: 平塚虹ヶ浜海岸

申 込: 自由参加ですが、初めて参加される方は往復ハガキで申し込んでください。集合場所等案内をお送りします。

●行事の年間会員募集は次号で行います●

☆: 展示(無料)・プラネタリウム(観覧料) ○: 申込制 ◎: 自由参加 無印: 年間会員制

あなたと博物館 25巻 11号 通算289号 発行 平塚市博物館 2800

〒254-0041 平塚市浅間町12-41 TEL:0463-33-5111 FAX:0463-31-3949

E-Mail: muse@city.hiratsuka.kanagawa.jp ホームページ <http://www.city.hiratsuka.kanagawa.jp/museum/>